

むかしの高松

“高松東道路関係発掘調査の成果より”

'92/3
創刊号

1、はじめに

現在、高松市教育委員会では、太田第2土地区画整理事業地内の、国道11号高松東道路予定地について建設省の委託を受けて発掘調査を行っています。

発掘調査も足掛け3年目が終わろうとしており、残りの調査もあとわずかとなりました。発掘調査に追われて、みなさんに遺跡を知ってもらうための現地説明会などもあまりできませんでした。そこでささやかではありますが、パンフレットを作成し、遺跡調査によってどのような成果が上がっているのかをご紹介しますと思います。

今回は平成元年度・2年度に調査を行った、調査対象地のおよそ東半分にあたる、^{さこ}浴・^{なが}長池遺跡、^{さこ}浴・^{まつのみ}松ノ木遺跡、^{さこ}浴・^{ながいけ}長池Ⅱ遺跡を中心に紹介します。

写真①は、浴・長池Ⅱ遺跡の上空から撮った写真で、写真中央部を東西に横切っているのが高松東道路の予定地です。写真をよく見ていくと、道路予定地を境として上半は区画整理によって新しい街路や形の整った水田が作られ、昔の面影は残っていませんが、南半は昔ながらの大小の水田が広がり、大きな道こそありませんが、水路や畦道に囲まれたほぼ正方形



の区割りに気づくはずですよ。これらの区割りは条里型地割と呼ばれています。奈良時代に行われた条里制によって区画された地割が、時を越えて、いろいろな制約を受けながらも現在にまで残ってきたものなのです。このように、私たちが発掘調査を行っている地域は大きく環境が変わろうとしているのです。では、地下を覗いてこれらの水田の下からどのようなものがでてきたのか見ていきましょう。

写真① 遺跡周辺の空中写真

2. どのようにして水田を見つけるのか？

4枚の写真は、各遺跡の土層の状況です。何十層にも分かれた深いものと、何層かにしか分かれな浅いものがあります。地形によって堆積する土の量もちがってきます。このような土の堆積を土の質や色のちがいによって分けていくことを分層といい、その層からでてくる土器などによってその層がいつの時代が決定します。この土層を細かく観察していくと土層が盛り上がる部分があります。写真①②④の矢印の部分の水田の畦になる部分です。このような盛り上がりや土層の乱れを注意深く探しながら分層を進めていくと、水田の畦の他、竪穴住居や溝、土坑(ゴミ穴)、柱穴なども確認できます。

断面で確認した畦の上面をめざして一層一層土を水平に削っていきます。平たく削っていくと畦の頭が帯状に見えてきます。この帯状の畦を残し、畦に囲まれた部分を削りだしたものが次ページの水田です。

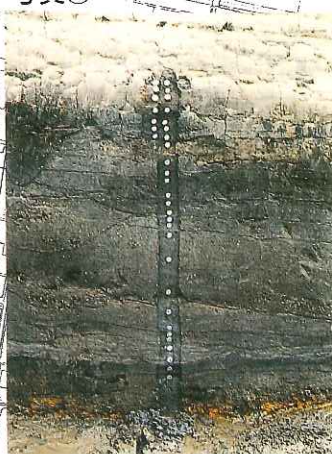
写真①



写真②



写真③



土層分層によって確認された層には、どのような、植物の細胞が含まれているのか。その層の土を採集し、細かな科学的な分析が行われます。

写真④



写真⑤



浴・長池Ⅱ遺跡

浴・長池遺跡

浴・松ノ木遺跡

3、埋もれていた古代の水田

高松市教育委員会の調査で確認できた水田は、弥生時代前期の終わり頃(約2,000年前)から現代にわたるもので、そのうち畦が確認された水田についてのみ発掘調査をおこないました。検出された水田の畦の中にはこぶし大の石を多量に使った畦もみついています。水害などによる破壊を恐れて丈夫に造られたものと思われる。これらの写真からお気づきかもしれませんが、水田一つの広さが非常に小さく造られています。その理由は、当時の土木技術や水の確保などの事情から、現在の水田のように広い範囲にわたって水をためることができなかったためであり、今のような水田区画になるのは江戸時代以降のこのようになります。



不定形の水田です。川の中からみつかりました。



鎌倉時代頃の不定形の水田です。



狭い範囲でみつかった不定形の水田です。奈良時代頃のものです。



弥生時代前期の終わり頃の水田での作業風景です。石灰で線引きなどをして写真がうまく撮れるようにします。



せっかくきれいになった水田も、雨が降った為に撮影は延期に。水がたまった水田の方が、当時のすがたがうまく伝わるかもしれません。



雨がやんで、天気は快晴。さあ今日こそは水田を撮るぞ～。ハイチーズ!!



定形小区画水田と言われるもので、形の整った水田が多く見られます。水田一区画の大きさは、大きなもので、20㎡ぐらい(6坪)になります。鎌倉時代頃のものです。



弥生時代の終わり頃の水田です。水田一つの面積は、最大で10㎡(3坪)しかなく、後の時代の水田と比べるとかなり小さなものです。

4、米作りのための施設

調査によって多くの水田遺構を確認していますが、稲を育てるためには水を供給する水路が必要です。これまでに紹介した水田は昔の川が埋まっていく途中で造られたものが多く、川の肩口に給水のための水路も造られています。洪水などによって水路が埋まれば、水田と同じように新しい水路を造っている状況も確認されています。



弥生時代の終わりごろから奈良時代にかけての大溝です。農業用の水路と考えられ、川から水を引く為に相当な労働力が必要だったことが想像できます。



川の掘りあがった状態です。写真の上の方に何本もの溝がありますが、これらは弥生時代から鎌倉時代にかけての水路のあとです。



川の岸近くに多くの石が列になっていますが、これは自然のものではなく、水田の大きな畦が水害などによって流されないように工夫したものです。(弥生時代のおわりごろ)



田んぼの中の水路。田植えの時期だけ水路になり、田植えが終わる時、少しでも収穫が多くなるように、水路の中も稲が植えられます。(弥生時代前期のおわりごろ)



確認した範囲は狭いですが、これも条里型地割に合っている溝です。鎌倉時代頃の溝ですが、これも稲作用の水路と考えられます。



縄文時代から弥生時代前期の川跡ですが、ここでは岸近くに農耕用と考えられる水路が走っています。土層では水田のあぜも確認しています。

5、地中に残された遺物たち

私たちの発掘調査でもおびただしい量の遺物が確認されています。これらの遺物(木製品・石器・土器)は、水路などがその役目を終えた段階で埋まってしまふものや、農耕用に使っていた木製品が何らかの事情でこわれたりして使えなくなったとき水路などに捨てられた例などが確認されています。



川底からみつかった杭列です。水の流れを変える施設かも知れません。弥生時代の終わり頃のものです。



杭列と同じように川底から出土した櫂状木製品です。どのように利用していたかよくわかりません。船をこぐ櫂に似ているので、このように呼んでいます。



溝の中にすてられた土器群。見てのとおり溝がほぼ埋まるころにすてられたようです。(弥生時代の終わりごろ)



溝の中にすてられていた木の樋といです。壊れたためにすてられたものと思われます。くわしく観察してみると焼けたあともみつかりました。(弥生時代の終わりごろ)



上の写真の溝で、でてきた土器のアップで、直径40cmほどの鉢です。ほとんどの土器が、このように壊れた状態ででてきます。(弥生時代の終わりごろ)



弥生時代中期頃の土坑です。いらなくなったり、壊れたりした土器が多く入っていました。



縄文時代晩期～弥生時代前期の川跡から出土したスプーン状木製品。(農耕具の一種と考えられます。)



スプーン状木製品と同じ川跡から出土した縄文時代晩期の浅鉢です。何を盛っていたのでしょうか?

6. そのほかの生活のあと

これまで大昔の稲作りに関わりのある遺構・遺物について述べてきましたが、この他にも竪穴住居、掘立柱建物、土坑、墓(方形周溝墓・円形周溝墓)等の遺構が確認されています。また、冒頭で述べた条里地割の地下には奈良時代や中世以降の水路の跡が埋まっている例が何ヶ所も見つかりました。大昔からこの地域が時代によっていろいろな土地の利用がされてきたことがわかってきたのです。



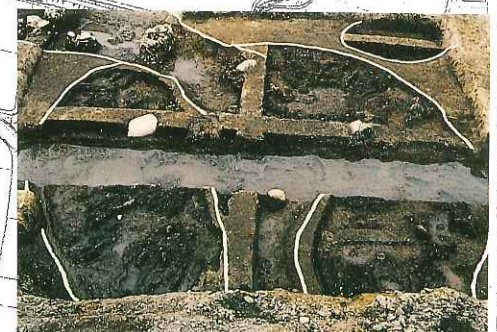
竪穴住居です。日本柱の住居と考えられ、中央には炉と考えられる炭が多く入った穴が確認されました。(弥生時代中期中頃)



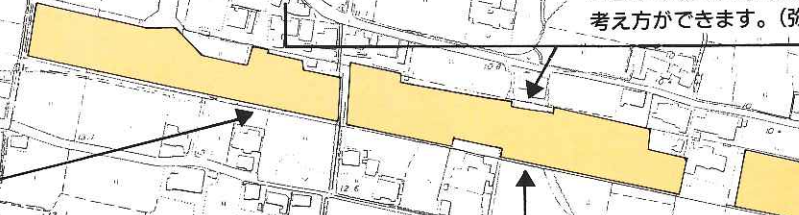
竪穴住居です。日本柱の住居と考えられますが、この住居のまわりには、住居を取り囲む溝が確認されました。(弥生時代中期中頃)



写真がよくありませんが、方形周溝墓と考えられます。ここでは円形周溝墓も確認されており、溝の中から供えられた土器も確認されています。(弥生時代中期の終わり頃)



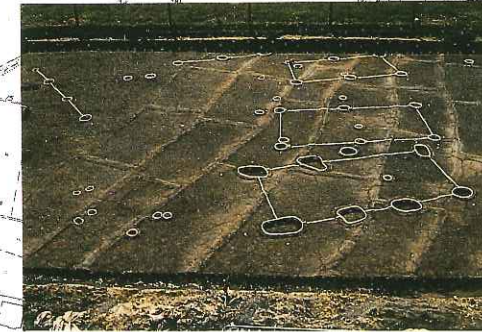
炭化材の見つかった竪穴住居です。焼け落ちた状況がよくわかります。焼けた原因はよくわかりませんが、戦いによるものが、建物がいらなくなった為に焼いたのか、いろいろな考え方ができます。(弥生時代中期中頃)



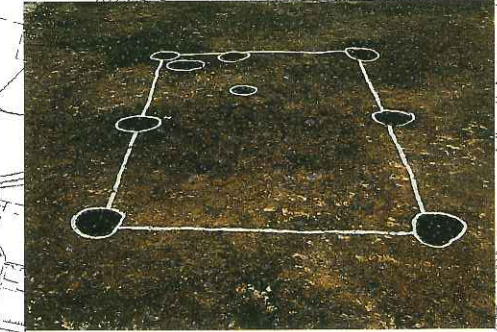
竪穴住居の柱穴です。日本柱の建物のようですが、上部の状況はうまく確認できていません。



写真中央部の平行に走る2本の溝は条里に関する溝と考えられます。柵の横の用水路が旧山田郡と旧香川郡の郡境になります。現在でもこの水路をはさんで右側伏石町、左側林町になっています。(平安～鎌倉時代頃)



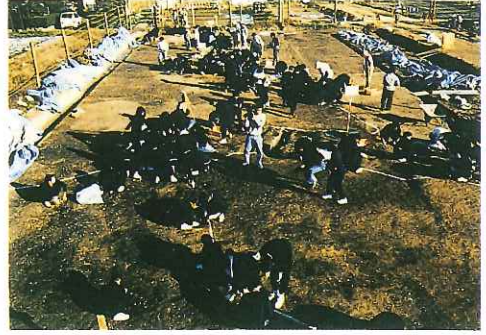
掘立柱建物を3棟確認しました。1×2間・2棟、1×3間・1棟で奈良時代頃の建物と考えられます。



掘立柱建物です。柱穴の大きさ、深さ等から高床式の倉庫が考えられます。この建物の中に米などが貯蔵されていたものと思われる。(弥生時代中期中頃)



一面の銀世界
雪かきをして、さあ今日も
発掘作業だ!!



校外学習の一環として中学校の生徒さんたちが発掘調査に参加しました。



7、あとがき

発掘調査によって、確認された膨大な資料を整理し、公にするには多くの時間がかかり、また内容も専門的なものになります。そこで、発掘調査によって得られた貴重な成果をできるだけ多くの人に知ってもらうために、はじめての試みとして、高松東道路の発掘調査の成果の一部を紹介しました。そのなかでも、特に最近発掘例が増えてきた水田遺構を中心にとりあげました。次回は調査対象地西半部の遺跡について紹介したいと考えております。何が出てくるかお楽しみに。

今後の編集の参考にしますので、ご意見ご感想などありましたら文化振興課までお聞かせください。調査・編集とにより一層の内容の充実を図っていきたくと存じます。 ㊦・㊧



発掘作業は大きな道具や小さな道具（移植ゴテ・ハケ等）を掘っていく場所によって使い分ける、たいへんな仕事です。

むかしの高松 創刊号

1992. 3. 31

編集／高松市教育委員会 文化振興課
高松市番町1丁目8番15号
(TEL 39-2636)

発行／高松市教育委員会
印刷／(株)多田印刷所